



どうだんつつじ

満天星

第3号 令和3年5月25日



QRコード
智頭小学校ホーム
ページへアクセス

生活リズムとメディア利用

校長 氏橋 俊司

例年より随分早く梅雨入りし、湿気や暑さ、そして大雨への心配をする頃となりました。また先日は、県内に新型コロナ感染増大警戒情報（東部地区嚴重警戒レベル）が出され、感染拡大防止のため予定していた春の運動会を6月初めに延期することといたしました。依然続くコロナ禍にあり、今後も地域や保護者の皆様にご心配をおかけすることもあると思われませんが、ご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。学校では、交通安全指導も含めて「事故なし、けがなし、病気なし」となるよう努めてまいりますので、ご家庭でもご指導いただければ幸いです。

さて、家庭で過ごす時間が増え、メディアに触れる機会も多くなっている昨今、皆様は本校児童の生活習慣についてどのような現状にあると思われるのでしょうか。昨年度実施した本町の調査では、「約9割の児童が朝食を食べている」「8割の児童が夜10時までに就寝している」などと、生活リズムの面では望ましい結果が見られました。またメディア利用に関しては、「7割超の児童（家庭）はゲームやインターネットを利用する際のきまりがある」「きまりや約束を作る家庭が年々増加している」といううれしい傾向がある反面、「2割の児童は毎日ネット利用をしている その割合は年々増加している」「3割の児童は、授業中に集中できないことがある」と少々気がかりな結果となりました。このようにメディア問題が確実に児童の生活に入り込むと同時に、生活習慣や心の面にも大きな影響を及ぼしていることが明らかになっています。

ふだん幼稚園児に読み聞かせをしているあるボランティアの方が、次のようなお話をされました。幼児に絵本を渡したところ、本を手にした幼児がすぐに右手人差し指で、本の中の絵を左から右へ動かそうとしたということです。何とも笑うに笑えない現状を表したお話でした。生まれてからずっとメディアに囲まれて暮らしている子どもたち。メディア機器はあまりにも当たり前に身の回りにある道具の一つとなっています。本校でも、昨年度末に整備されたタブレット端末を様々な授業場面で使うことが多くなっていますが、担任は児童の活用の様子を見て、その適応力の高さに驚かされるのがしばしばです。

このように、切っても切れない存在となりつつあるメディア機器。たいへん便利な物ながら、一方でSNSを巡る人権侵害やいじめ、そして依存症の問題など、事件や社会的な問題も多発しています。まさに正しい扱い方や道徳性を高めることが求められています。以前より学校では、生活リズムを整えることは安全な生活や心の安定、学力の向上につながり、児童の成長に大きく関わるとお伝えしてきました。現在はこのことに加え、皆様とともにメディア機器が適切に扱えるよう環境を整備し、児童の健全育成を図る時代となっています。

6年生の授業風景（タブレット活用）



教職員研修

